

みどりのなかま

8・9

月合併号

〒141-8411 東京都品川区西五反田2-11-8 発行/(株)学研エデュケーショナル 発行人/土屋 徹 編集人/平田善章 編集/みどりのなかま編集部 編集制作/グリーンペベ



↑TBS系で放送中のクイズ番組「東大王」より。

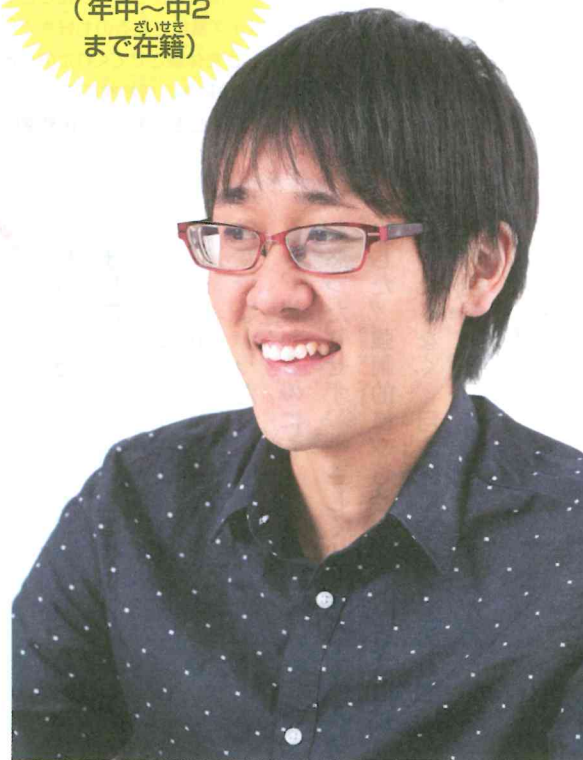
学研教室の先輩からのメッセージ ①

テレビで大活躍!!

初代 東大王 鶴崎修功さん

「学研教室で身につけた予習型の学習習慣が今につながっています。」

がっけんきょうしつ 学研教室の せんばい 先輩 (年中～中2 まで在籍)



撮影/田辺エリ



読む力・考える力—伸びる学力
学研教室
幼児/算数・数学・国語/英語

クイズ番組「東大王」(TBS系)に出演中の初代東大王・鶴崎修功さん。彼は実は年中から中2まで学研教室で学んだ学研教室の先輩なんです。鶴崎さんは子どものころ、学研教室でどのように勉強していたのでもしよっか。ご本人によると、年中からずっと継続していた学研教室での学習方法が基礎となり、後の東京大学受験の勉強にも生かされたのだそうです。今回は学研教室の大先輩の頭脳の秘密に迫りました。

取材協力/TBS

Q 学研教室には、いつから通っていたのですか？

年中から中学2年生まで通って、算数と国語の2教科を学んでいました。私は自宅の近くの湖山教室(鳥取県鳥取市)に通いました。今、高3の私の妹も中3まで同じ湖山教室に通っていました。

Q 学研教室に入会した理由は何ですか？

入会にあたっては、自分から通わせてほしい、と親に言ったように記憶しています。幼児のころからパズルを解くのが好きで、市販の子ども向けのワークブックをよくやっていました。それでも満足できなくて、親にもっと問題を解きたいから問題を出してほしいとせがんだこともあったんです。そんなとき学研教室のチラシに紹介されていたワークの延長のようなクイズやパズルみたいな教材を見て、「これをやりたいから学研教室に通わせてほしい。」と言って入会したんです。

つる さき ひさのり 鶴崎 修功さん

1995年鳥取県生まれ。鳥取大学附属中学校、鳥取県立鳥取西高等学校を卒業し、東京大学理学部数学科へ入学。現在は東京大学大学院数理学研究科修士課程1年。東京大学クイズ研究会(TQC)に所属し、大学3年生のときに初めてクイズ番組「東大王」に出場し優勝。初代「東大王」になるという快挙を成し遂げ話題に。IQ(知能指数)は165。父親は鳥取大学農学部の教授で、母親はオペラ歌手。年中のときに学研教室に入会、中3までの教材を中2で修了して卒業。兄妹2人そろって学研教室会員の先輩で、現在高校3年生の妹も年中から学研教室に通って中3まで続けた。

今は高校コースもあるそうですね。当時は中学までしかコースがありませんでした。もし当時、高校コースがあったら、もっと学研教室を続けていたと思います。

Q 鶴崎さんにとって学研教室のよかったところは、どんなところですか？

学研教室は、無学年方式で自分のペースでどんどん先へ進められるという点が

よかったですね。もし、授業タイプ(講義型)の学習塾に通っていたら、他の子のペースに合わせてはなりません。先取り学習もできる学研教室は、自分のペースで早くも遅くもできるので、ストレスなく中2まで続けられました。もつと先に進みたくても、自力だけでは限界があるので、上の学年の教材を与えてくれる学研教室はとて

もありがたかったです。
学研教室では、通常、1日に算国の教材を2枚ずつのペースで解いていきますが、私は気分が乗ると3枚、4枚とやっています。家庭学習も先生が教材を私のペースに合わせて渡してくれたので、短期間に1冊分やったこともあります。

Q 学研教室は鶴崎さんの勉強法にどんな影響を与えましたか?

私の場合、勉強のスタイルとして予習をする習慣が身につきました。たとえば、小4のとき、私は学研教室で小6で学ぶ内容を予習していました。小4で小4の学習内容を完璧にマスターするのは大変ですが、

小6の内容を学んでから小4の問題を見ると、「これは6年で出てくる内容に関係するものだから、よく覚えておこう。」と考えられるようになるので、目の前にあってあまり気が進まない勉強でも将来に役立つと思えるようになり、やる気が出ます。つまり理由がわかれば頭に入りやすいのと同じです。

私の小・中学校時代の勉強法は、このようなものでした。小さいころから、自宅にパソコンの勉強ソフトがあつて、それがおもしろかったのでもうやっています。このソフトで予習して、多少わからないところがあつても20%くらいの理解でよしとしていました。次に学研教室で教材を使つて、先取りで学校の勉強の予習をして70%

くらい理解し、学校で100%にするという完全に予習型の勉強法でした。とくに算数と国語は、学研教室で先に1、2年上の教材をやっていたので、学校の授業で同じ単元をやるのは、パソコンでの勉強も含めると3回目ですから、楽勝! だから小・中学校の成績は良かったほうだと思います。
学研教室の先取り学習で成功した体験は、

後の東大の受験勉強にも十分生かされました。完璧な理解でなくても、ある程度先のことを予習しておいて、残りの部分はあとで埋める勉強法は、今やっていることの意味をしっかりと考えられ、学習の目的がはっきりするのでやる気も出て知識が定着します。この予習型の勉強法のよさに気づかせてくれたのは、まちがいに学研教室での無学年方式の学習です。どうせやらなければならぬことは先にやっておく。予習するくせがついたと思います。

Q 学研教室の「算国2教科同時学習」という点はどうでしたか?

学研教室で算国を同時に学べたのはよかったです。得意な算数だけでなく、国語で漢字や語いを学べたからこそ上の学年の教材も理解できました。漢字を含め、国語力はとても重要だと思っています。そもそも漢字が読めなかったり、語い力や読解力がなかったりすると教科書や問題文すらも読めません。正直なところ、小学生時代、長文読解問題に関してはあまり得意

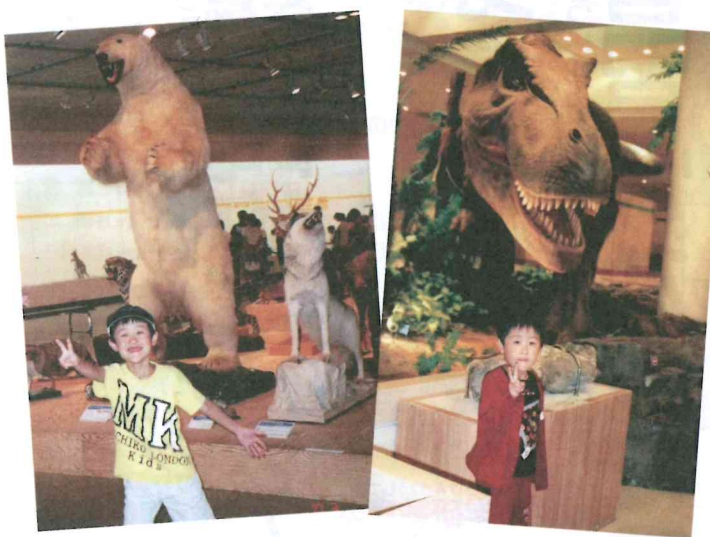
ではありませんでした。ですが、学研教室を長く続けるうちにいろいろな読解問題に触れたことで自然に読解力が身につきました。苦手で、あきらめずに続けられ力がつきます。

Q 学研教室の教材について何か印象に残っていることはありますか?

学研教室の教材は全体的にわかりやすかったです。最初に囲みで説明があつて、例題をやつてからウラ面の練習問題をやるという構成がとてもいいと思いました。練習問題に挑戦して、もしわからなかったら、前に戻って囲みの解説を読み直せばできる。これが学校のような講義型の授業だと、聞き逃してしまつたときに自分のペースで前に戻ることができません。学研教室の教材は、わからなければ、自分がわかるまで戻ればいのでやりやすかったです。私は、できるところまで自力でどんどん進んで、「わからなかったら前に戻る」というタイプだったのでぴったり合っていました。ちなみに小・中学生のときは学研教室の勉強だけで十分でした。

Q 学研教室の先生はどんな方でしたか?

私は、自分のペースで学習に取り組んでいましたが、先生は、私のペースに合わせてくれるのがよかったですね。通っていた鳥取市湖山教室の田村先生は、私がいまだ得意でなかった読解問題に取り組んでいて、とき、終わるのにちよつと時間がかかっても怒つたりせず、やさしく待っていてくれました。強制的にやらせる、ということはありません。自主的に学習を進めるといふ雰囲気を作ってくれていたのでとても感謝しています。



↑「親は、博物館や美術館によく連れて行ってくれました。父は大学で生物学を研究しているので、いっしょに虫を採りに行ったこともあります。子どものころから家族でテレビのクイズ番組を見るのも好きでした。それを通して「学ぶ」「知る」ことの楽しさを体験させてくれたのだと思います。」(鶴崎さん)。左の写真は小2のとき鳥取県立博物館にて。右の写真は年長のとき愛媛県総合科学博物館にて。このときはすでに学研教室に通っていました。



鶴崎修功さんが通っていた湖山教室の
田村明子先生からひとこと



学研教室の自学自習と 繰り返し学習が東大合格に直結!

鶴崎さんは、とくに算数が得意で、難しい図形問題に取り組むとき、頭の中に図形を完璧に描いているような感じでずらすと説明するので驚いたことがあります。小学生のころから、私に言われなくても、自分から教材を読んでどんどん問題を解いていくお子さんでした。学研教室での自学自習の習慣や教材による繰り返し学習が下地になって学力を育み、東大合格の結果につながったのだと思っています。クイズ番組で冷静に正解する鶴崎さんを見ると「学研教室で教材の問題を解いていたときの姿と変わっていないな。」と感じます。



大学院で数学を研究している
鶴崎さんですが、算数が苦手
というお子さまにはどんな
アドバイスをしますか?

算数が好きになるコツは「意味をよく考える」ことだと思います。小学校の算数だったら、すべての数字を意味づけることができますし、計算にも目的があります。解き方やプロセスすべてに意味があるので「どうしてこういう式や計算になるんだろう」と意味を考えてみてください。たとえば、 $4 \times 5 = 20$ という計算をしただけでは「20」はただの数字ですが、縦が4cmで横が5cmの四角形の面積を求めるための式だったら「20」という数字には四角形の面積(平方センチメートル)という意味があるのです。算数というのは、計算自体が目的ではなくて、「面積を求める」などの目的があるので、理解して学んでいくと、おもしろくなっていきます。



ここからは、東大について
聞かせてください。テレビ
番組「東大王」に出演する
ことになったきっかけは?

東大に入学して「東京大学クイズ研究会(TQC)」に入り、そこで公式ツイッターの管理をしていました。テレビ局のTBSから「今度、「東大王」というクイズ番組を作るので、ツイッターで東大生の出演者を募ってもらえませんか。」という打診があったのです。そのときにTQCからも出演してもらえないかという話があり、もともと私は連絡係だったのですが、「じゃ、ほくも出場しましょうか。」となりました。クイズ研究会の活動としてクイズの勉強は日ごろからやっていたのですが、優勝できたのはラッキーでした。



クイズについては、
どのように
勉強していますか?

過去のクイズ大会の問題を見て勉強をしています。さらに、TQCでクイズ大会を主催するために、自分たちで問題を作ることもあるので、問題作りのためにいろいろなことを調べて勉強もしています。一般常識をはじめいろいろな知識は、クイズがきっかけで覚えたと思います。以前は、スポーツにあまり興味がなかったのですが、クイズでスポーツの問題が出ることもあるのでプロ野球の試合結果などを見るようにしていました。私の場合は何事も「クイズが入り口」です。それまで関心がなかったこともクイズで知って自分の世界に取り込んでいます。



最後に、学研教室で
勉強がんばっている会員の
みなさんに励ましの
メッセージをお願いします。

勉強はやっておいたほうが大人になってからきつと得をします。どうせやらなきゃいけないなら、できるだけ楽しくやってほしいです。勉強というのは、なぜ学ぶのかその意味に気づくと楽しくなります。また勉強を通して、「知る」ことの楽しさや「自分に向いているもの」を発見できることもあるのではないのでしょうか。そして自分に合った勉強のやり方や楽しみ方を見つければいいと思います。私は子どものころからクイズやパズルを解くのが大好きでした。知ること、学ぶことが楽しいと思ったきっかけがクイズやパズルであり、それが学校の勉強では算数につながったのだと思います。今は大学院の数理科学研究科に在籍していて、将来は数学の研究かプログラミングをやりたいと思っています。

学研教室でしっかり学んでいけば、東大にだって入れます。だれにでも苦手な部分はあると思いますが、続けていけば絶対に成長できると思うので、何事もあきらめず、学研教室をがんばって続けてください。

楽しく学びましょう!
鶴崎 修功



大人から子どもまで楽しめるクイズ・バラエティー番組

『東大王』

毎週日曜日19:00~
TBS系列で放送中!



現役東大生の中から事前テストで選抜された東大生や東大OB・OGが、クイズに自信のある人や芸能人チームと対決。「知力の壁」ともいふべき「東大王チーム」4人に「芸能人チーム」12人が挑み、豪華賞品をかけてバトルが繰り広げられる、大人から子どもまで楽しめるクイズ番組。鶴崎修功さんは、2016年10月に初代「東大王」となり、現在は水上颯さん、伊沢拓司さん、鈴木光さんとともに、東大王チームとしてレギュラー出演している。